

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	20-012	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Alcohol use and abuse and motivations for drinking and non-drinking among Spanish adolescents: do we know enough when we know parenting style? スペインの青年におけるアルコール使用と乱用および飲酒と非飲酒の動機：子育ての方法を知っているだけで十分なのだろうか		
執筆者		
Garcia OF, Serra E, Zacaes JJ, Calafat A, Garcia F.		
掲載誌		
Psychol Health. 2020 Jun;35(6):645-664. doi: 10.1080/08870446.2019.1675660.		
キーワード	PMID	
青年期の飲酒、家族の社会化、子育てと文化、子育てスタイル	31607160	
要 旨		
目的： 青年期の飲酒の保護または危険因子として、温かさと厳格さに特徴づけられる子育てのスタイル（例えば無頓着、寛大、権威主義など）を調査する。		
方法： 住民 100 万人以上のスペインの大都市圏における公立高校と私立高校をランダムに抽出し、15-17 歳の高校生 996 人を分析対象とした。親の温かさと厳格さはそれぞれ、the 6-item emotional warmth scale (Short-EMBU) と 9-item over-protection scale (Short-EMBU) によりスコア化し、得点が高いほどその特徴が大きくなることを示した。青年の飲酒は、6 種類のアルコール飲料（ワイン、ビール、ミックスドリンク、リキュール）について家の外での週末の飲酒量を、アルコールの乱用は過去 12 か月の多量飲酒の有無を調査した。飲酒の動機は社会的受容と自己高揚、非飲酒の動機は厳しい規則と飲酒の有害な影響の認識について評価した。2 つの 4×2×3 多変量分散分析により、青年期の飲酒および飲酒行動の動機と子育てスタイルとの関連を評価した。		
結果： 青年期のアルコールの使用と乱用のリスクは、寛大な子育てにおいて低く、権威主義な子育てにおいて高かった。寛大な子育てを受けた青年は、権威主義の子育てを受けた青年に比べ、飲酒の動機に対する社会的受容のスコアは低く (1.37±0.41 vs 1.56±0.55)、①飲酒の動機に対する自己高揚の低さ、②非飲酒の動機に対する厳しい規則と③飲酒の有害な影響の認識の低さは同等のスコアであった (①2.28±0.64 vs 2.37±0.66, ②3.04±0.49 vs 3.11±0.52, ③3.56±0.48 vs 3.51±0.54)。一貫して青年期のリスクが最も高いのは、権威主義で無頓着な子育てスタイルであった (α=0.05)。		
結論： 少なくともいくつかの文化において、温かさと論理的説明は子孫を飲酒から保護するために推奨されると示唆された。		